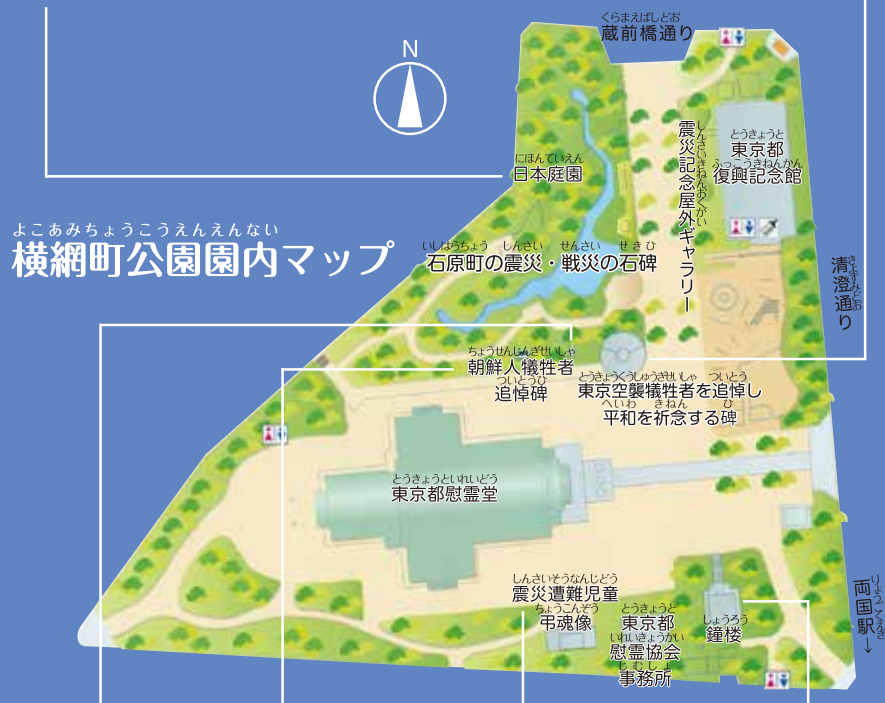


たんけん！ 都立横網町公園

平成25年9月

編集・発行 公益財団法人東京都慰霊協会

所

電話 / FAX 03-3623-12

U

編集協力・印刷

〒130-0015 東京都墨田区横網2丁目3番25号

03-3623-1200

<http://tokyoreikyokai.or.jp/>

株式会社シーエスプランニング



よこあみちょうこうえん
ようこそ横網町公園へ
WELCOME TO YOKOAMICHO PARK



すみだく 墨田区には東京の歴史を知る上で大切な公園があるんだって。



えどとうきょうはくぶつかん 江戸東京博物館や国技館の近らしいけど、いったいどんなところだろう。



こんにちは。君たちが探しているのはこの「都立横網町公園」じゃないか？



「よこあみ」？ 両国が近いから「よこづな」かと思ったよ。



このあたりは墨田区になる前、「本所区横網」といわれていたんだよ。



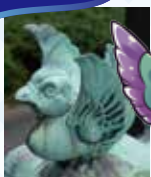
「本所区」って今はないけど？



今の23区の中心部が15区に分けられていたんだ。
本所区は今の墨田区の南部だね。



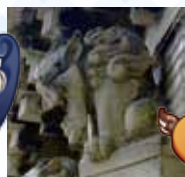
慰霊怪獣



レイレイ



マモリュウ



ライオー



緑やお花がいっぱいあるきれいな公園だけど、大きな建物があって、普通の公園とは雰囲気が違うみたい。



神社のような建物は東京都慰霊堂、こっちの洋風の建物は東京都復興記念館だよ。



どちらもすいぶん古そうだけど、いつ頃建てられたものなの？



1923（大正12）年に起きた関東大震災のあとだよ。

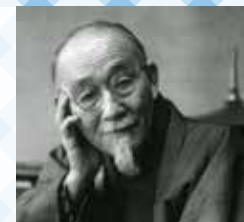


南関東一帯を襲った大きな地震による震災ね。
このあたりは被害が大きかったらしいけど、そのこととどんな関係があるのかしら？



それは僕の仲間が建物を案内しながら紹介するよ。

けんちくか 建築家・伊東忠太（1867～1954）は妖怪好きとして知られ、自分の設計した建物に不思議なオブジェをあしらいました。代表例は築地本願寺ですが、東京都慰霊堂や東京都復興記念館でも、あちこちにユニークな妖怪たちを住まわせています。



写真：日本建築学会建築博物館蔵

とうきょうと いれい どう 東京都慰霊堂

 この東京都慰霊堂には、関東大震災や東京大空襲で亡くなった人たちのお骨が一緒に納められているんだよ。

 震災と戦争と、別々に亡くなった人たちのお骨が、どうして同じところに納めらることになったの？

 最初のきっかけは関東大震災だ。ここが大きな空き地だったので多くの人が避難して来ただけど、そのほとんどが炎の竜巻のような火災旋風に巻き込まれて亡くなってしまった。それで、その人たちのお骨を納めて吊う震災記念堂が建てられたんだ。



 東京大空襲はそれよりずっと後で、確か1945（昭和20）年ね。

 東京の下町は3月10日の大空襲で、関東大震災のときと同じような焼け野原になってしまったんだ。でも、この震災記念堂は焼けずに残ったんだ。

 それでここが、2つの災害の犠牲者のための施設になったのか。

 戦後、大空襲やその前後の空襲で亡くなり、都内のあちこちに仮埋葬されていたお骨がここに移されたんだ。震災と戦災の犠牲者をともに吊う場として、東京都慰霊堂と名を改められたんだよ。

 今も、大勢の人がここに眠っているのね。

 毎年、関東大震災が起きた9月1日と、東京大空襲のあった3月10日に、ここで慰霊大法要が行われているよ。



 1923（大正 12）年9月1日に起きたマグニチュード7.9と推定される巨大地震によって関東大震災が発生し、約10万5千人が犠牲となりました。このとき、「陸軍被服廠跡」（陸軍の衣料工場跡）と呼ばれていた空き地（現在の横網町公園はその一部）に避難した人々は猛烈な火災旋風に巻き込まれ、約3万8千人が亡くなったのです。そして1930（昭和 5）年、多くの人からの寄付によって、この地に震災記念堂が建てられました。

アジア・太平洋戦争末期、日本各地は激しい空襲にさらされ、中でも1945（昭和20）年3月10日の東京大空襲では10万人を超える人が亡くなりました。大震災の焼失地域のほとんどが、再び戦争によって焼け野原となったのです。このとき奇跡的に焼け残った震災記念堂は戦後、震災と戦災の犠牲者、およそ16万3千人を吊う場として東京都慰霊堂と名称を変更し、今日に至っています。



東京都復興記念館



この建物は関東大震災に関する資料を保存、展示する「震災復興記念館」として建てられたものだよ。

どんなに揺れたか、どんな被害が起きたか、パネルや写真を見るとよくわかるね。特に火災の被害が大きかったことも。

焼けて曲がりくねった鉄骨や機械、カメラやメガネ、お鍋や食器、時計やお金…。身の回りのものがこんなふうになるなんて。

地震や火災の被害を描いた絵画もたくさんあるよ。当時の人たちが受けた衝撃の大きさと関心の高さが伝わってくるだろう？

震災復興記念館は関東大震災の被害や惨状、その後の復興事業を伝えるため、1931(昭和6)年8月18日に開館しました。館内には復興を祝って1929(昭和4)年9月に開かれた帝都復興展覧会の展示品、絵画や写真、図表、被害資料、市民からの寄贈品などが展示されています。



震災後の避難生活や救援活動に関する資料や写真もあるね。

震災後、東京を元の姿に戻すのでなく、もっと暮らしやすくして災害に強い都市にするため、復興事業が行われたんだ。その内容を示す精巧な復興模型がいくつもあつたよ。

とっても大きいけど細かいところまでよく再現されているのね！

今の東京の原型はこの復興事業で作られたんだ。でも、東京はアジア・太平洋戦争末期の空襲でまた焼けてしまい、そこからもう一度立ち上がって世界有数の大都市になったのさ。

それで震災と戦災の資料と一緒に展示されているんだね。

建物の周囲や園内のあちこちにも、震災や戦災の被害を伝える、貴重な碑や展示品があるんだよ。



震災から立ち直った東京は、アジア・太平洋戦争末期の空襲で再び焼け野原となりました。そこで戦後、戦災関係資料の展示が追加され、「東京都復興記念館」と名称変更しました。今では震災・戦災の記憶とともに、昭和初期の都市計画や街づくりを伝える貴重な施設となっています。

